

cairn (2020)

2018年に、自身の生活環境の変化をきっかけに、アイスランドのロングトレイルや街を歩いた時に撮り溜めた写真を束ねた写真集。cairn(ケルン)とは、山道の脇に重ねられた積み石のことを指す。圧倒的な疲労感から写真を撮ることに対しての意識は薄れていきつつも、そこに居たという存在証明のようにシャッターを押すという行為は、登山などで石を積み重ねる行為と重なる。また、それを紙の束としてまとめた本自体がcairnそのものであることに気づき、books cairnという活動に繋がっていく。



2020年4月3日 初版発行

発行 自費出版

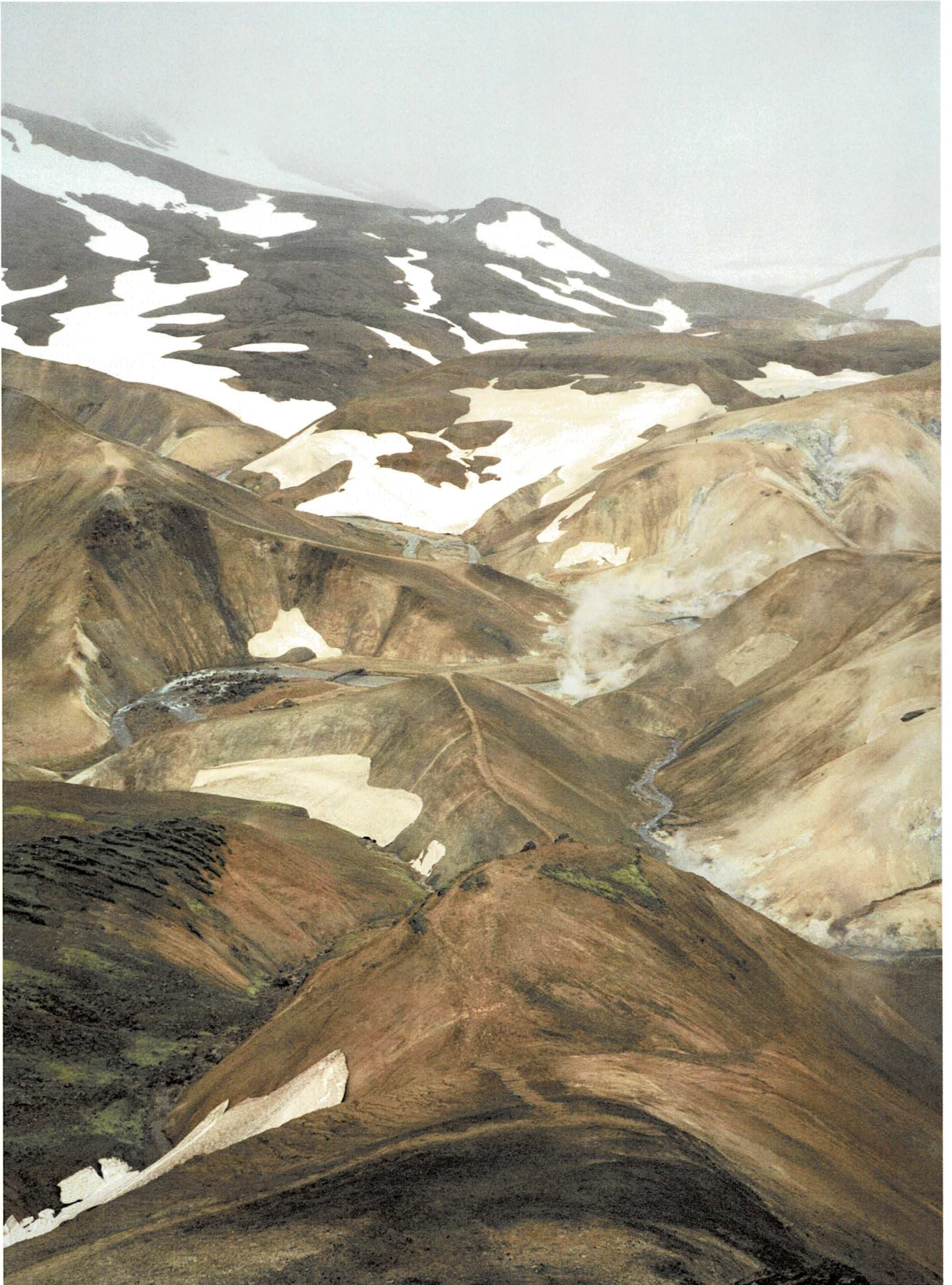
ブックデザイン 宮添浩司

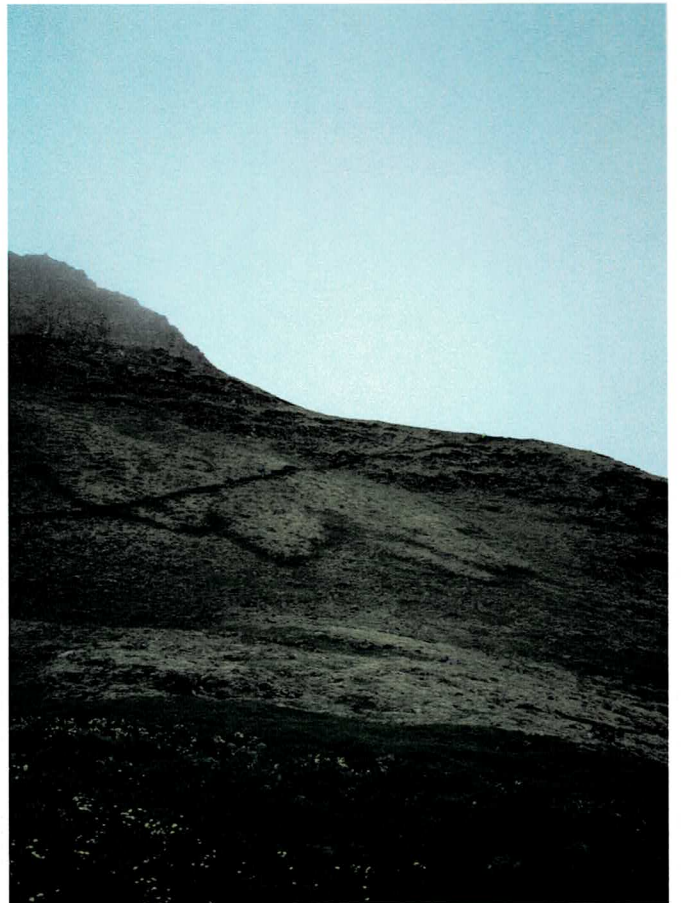
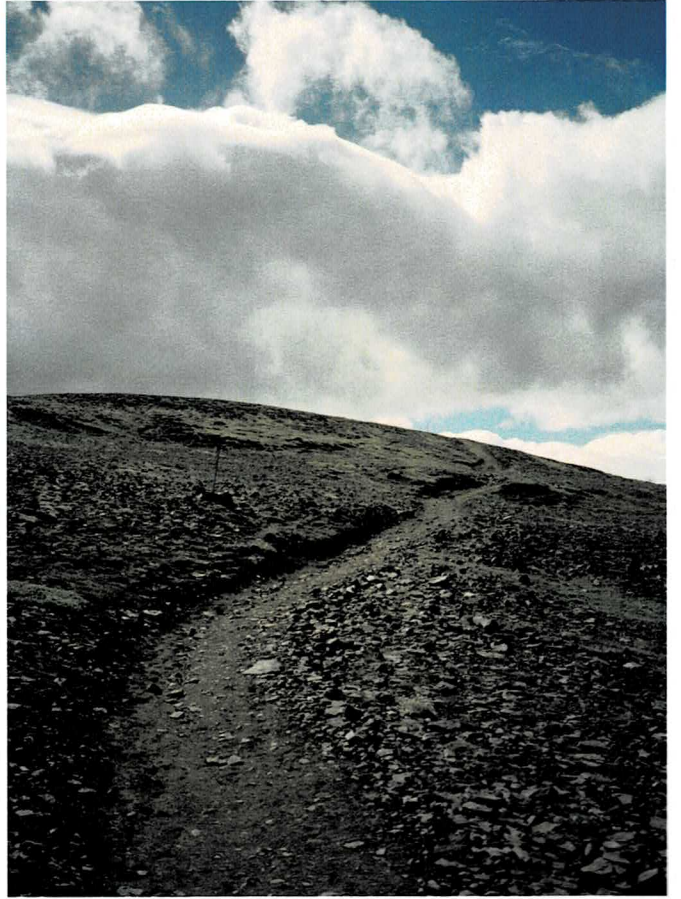
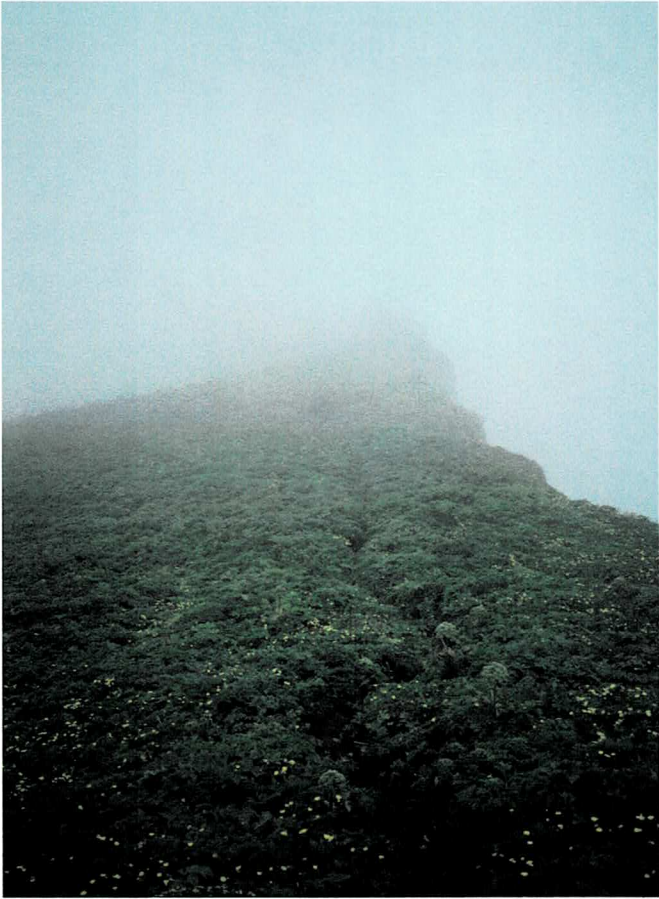
印刷、製本 inuuniq

A5変形 並製本

150mm×220mm ソフトカバー

192ページ





stratum (2022)

記憶と記録をテーマに制作した。

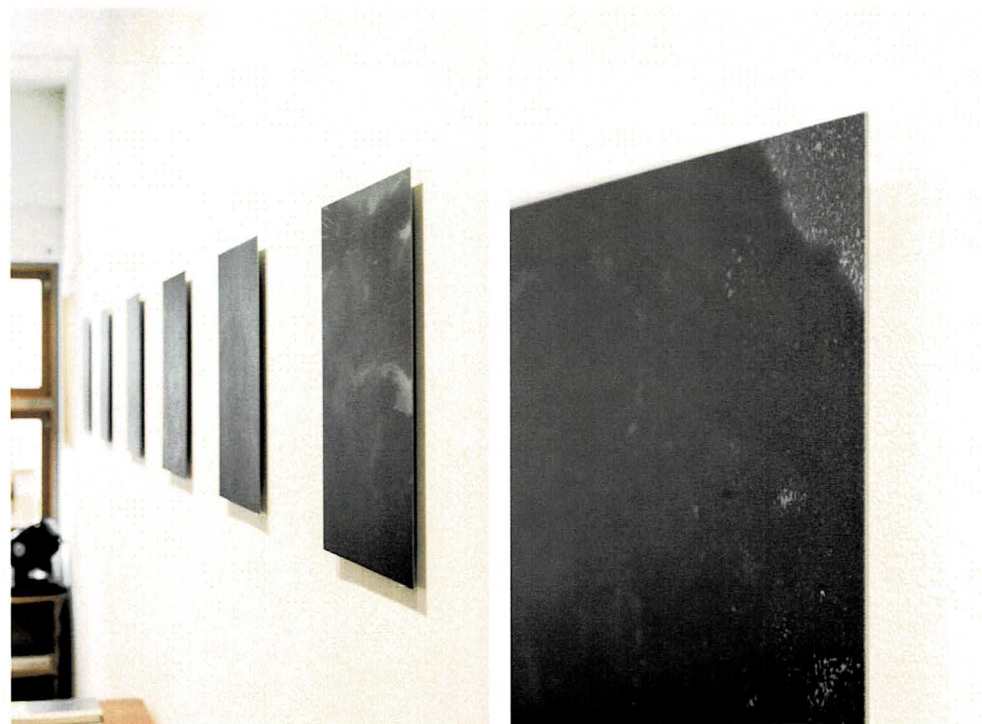
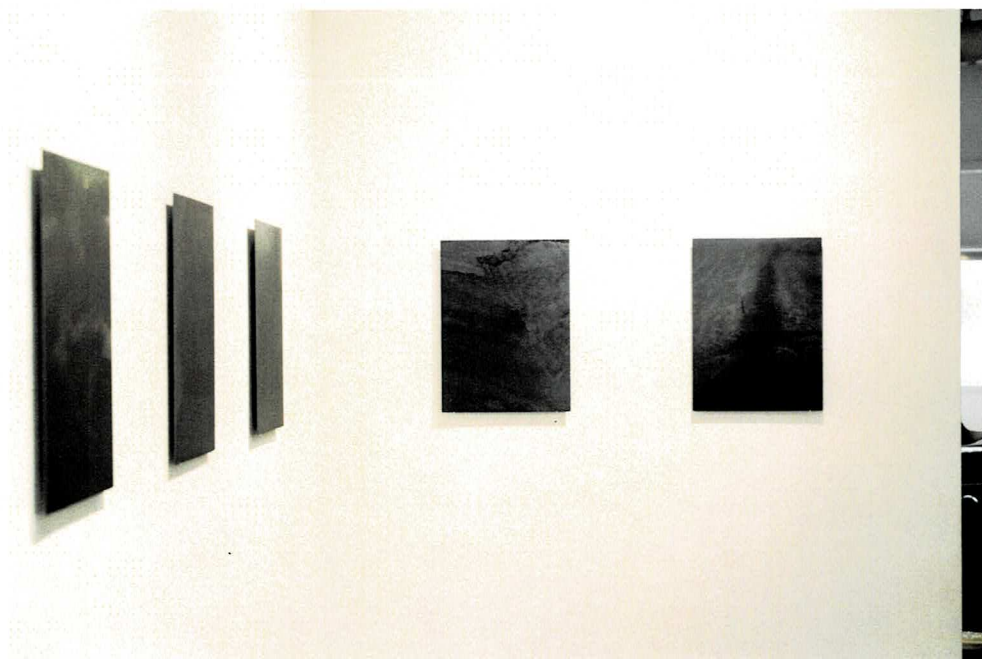
2018年に訪れたアイスランドにて撮り溜めた写真を、時間が経って2022年に眺めた時、自身が想像していた以上に当時の記憶を思い出せなかったことがきっかけとなっている。

インクジェットプリンターを用いて、専用用紙の反対側に出力することでインクが紙に定着しないことを知り、そのインクを別の紙に擦り付けることでイメージを制作した。さらに、そのイメージをスキャニングし、データ化とすることで、鉄板に出力した。

靡げないイメージと支持体の強さの間にあるギャップは、

記憶の曖昧さと記憶を憶えていると強く感じていた自身の身体の関係を表している。

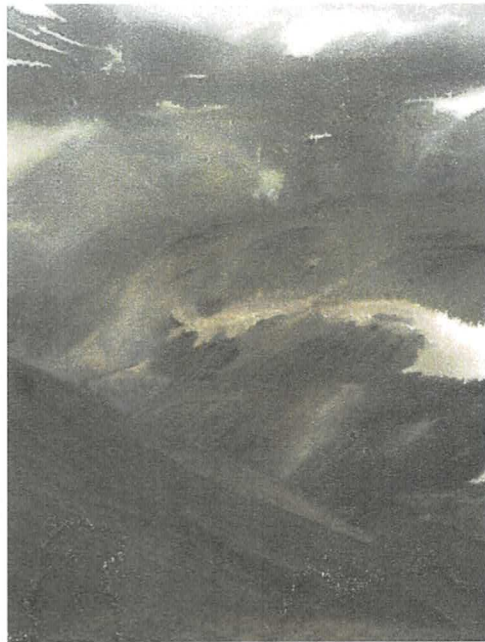
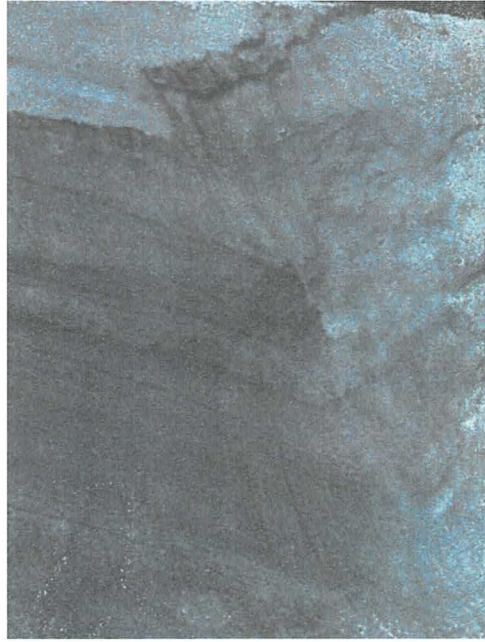
また、アイスランドではロングトレイルを歩いていたこともあり、制作の過程に身体的な行為を取り入れたかったので、イメージを擦り付ける、という行為を取り入れた。

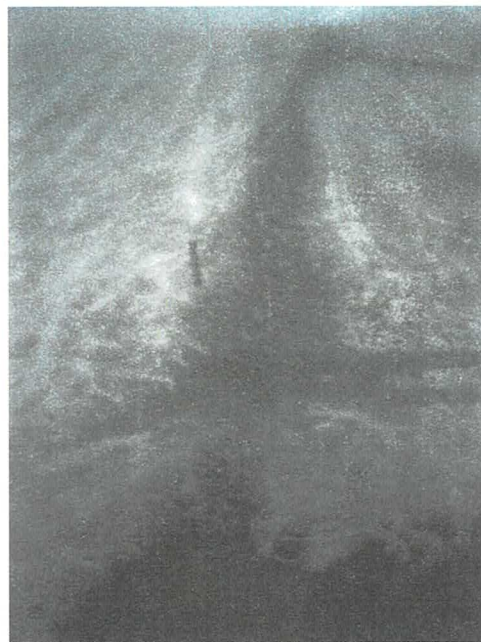
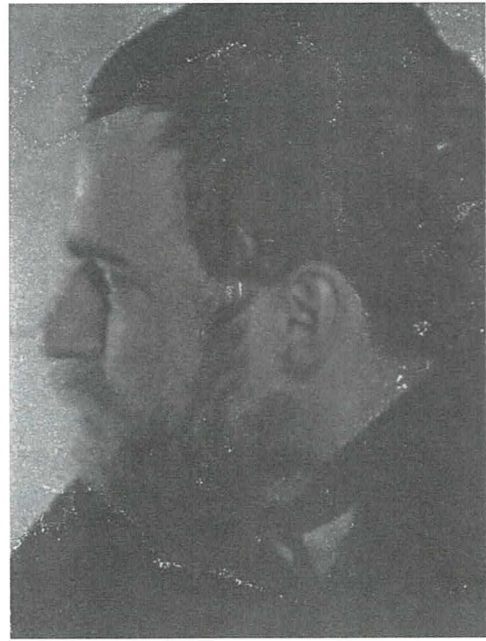
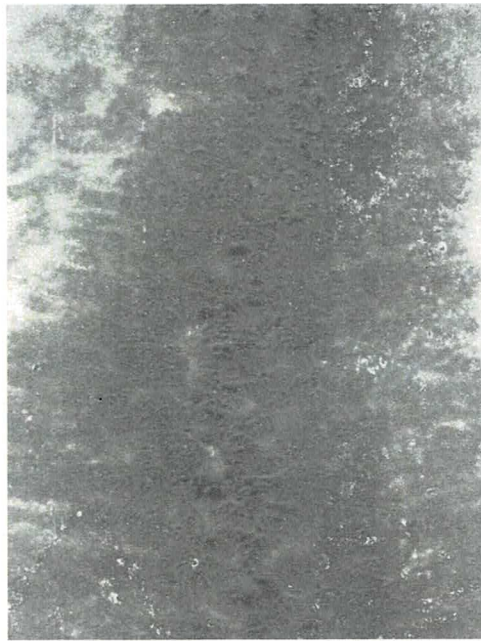
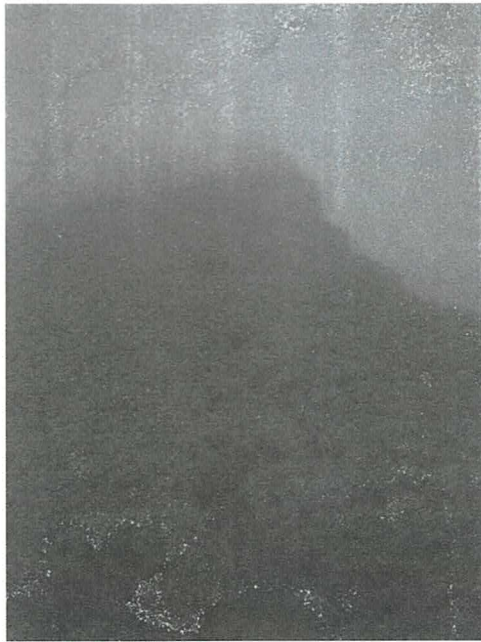


UV print on Iron Plate, Neodymium, 300×400mm









池塘 (2023)

雲ノ平山荘アーティスト・イン・レジデンスプログラム2022にて制作した作品。

山荘付近に点在する池塘という池の独特な形に着目し、撮影した。

雲ノ平山荘は、北アルプスの最奥地にあることから、主要な登口からほぼ2日間かかる場所にある。そのような場所での出来事は、日常生活から切り離されて考えられがちであるが、滞在制作を通して、その“遠さ”は自然を取り巻くあらゆる問題を見えにくいものとしているようにも感じた。そこで、作品を飾るための額縁の意味を捉え直し、地続きである自然に対して想いを巡らせられるような展覧会の構成にした。



Digital chromogenic print 1637 × 1230 mm (image size)

Chromogenic print on paper mounted on aluminium, original frame 138×173mm(image size) 330×400mm (frame size)

Chromogenic print, glass, mat board, MDF 100×125mm(image size)

Chromogenic print, mat board, MDF 100×125mm(image size) 240×300mm (frame size)240×300mm (frame size)

